

氏名	NGUYEN THI HIEN
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第174号
学位授与年月日	平成26年3月10日
学位論文題目	ベトナムと日本における人工肛門造設患者のQOL調査研究 ーベトナムの2病院と日本の1病院の実態ー

論文内容要旨

※整理番号	179	(ふりがな) 氏名	ぐえん てい ひえん NGUYEN THI HIEN
修士論文題目	ベトナムと日本における人工肛門造設患者のQOL 調査研究 —ベトナムの2病院と日本の1病院の実態—		
<p>【研究の目的】 がんは先進国では死因の第1位であるが途上国では第2位である。大腸がんは女性で第2位、男性では第3位の死因となっているが、患者の命を救うことのみならず生活の質を良くすることも必要となってきた。日本では、人工肛門造設後、ストーマ関連QOLが低下しやすいという様々な研究が報告されているが、ベトナムの看護の領域では、人工肛門造設患者を対象にしたQOLに関する研究はほとんど発表されていない。今回、これらの現状に基づいて、保健医療の質、および、人工肛門造設患者の生活の質の向上のために実態調査が必要であると考えた。そこで、人工肛門造設患者のQOLの状況やQOLに影響する因子を把握することで、適切な看護の提供や効果的な退院指導計画を行うことができると考え、本研究に取り組むこととした。</p> <p>【方法】 ベトナムの2病院と日本の1病院で人工肛門造設を受け退院後1ヶ月以上経過した患者を対象にし、人工肛門造設患者QOLの現状を把握するために、SF-36の調査票とオストメイトのQOL調査票を用いた。ベトナムでは先行研究の平均値と比べ、日本では国民標準値と比較して、全体像を把握した。ストーマ関連QOLと一般QOLを従属変数とし、患者の基本属性とストーマ関連の13項目を独立変数として、影響因子を明らかにするために重回帰分析を行った。</p> <p>【結果・考察】 ベトナム側は194例で、日本側は53例であった。SF-36の平均点について、ベトナム側の人工肛門造設患者は、先行研究にてベトナム人女性の健康者平均点より、すべて低値であった。そして、日本の対象者では、国民標準値の50点に比べ、身体的健康QOLと役割/社会的健康QOLは有意に低値であったが、精神的健康QOLは有意に高値であった。オストメイトQOLに関しては、ベトナムでは、女性より男性のQOLが有意に高値で、年齢については高齢者の方が有意に高値であった。そして、ストーマ造設後経過日数については、3ヶ月未満群は3ヶ月以上経過した群より有意に低値であった。そして、ストーマセルフケア不能な者はストーマセルフケア可能な者に比べ、有意に低値であった。また、ストーマ患者会に参加群は参加なし群に比べ有意に高値であった。さらに、ストーマに関する相談相手あり群は相談相手なし群に比べ、有意に高値であった。これらの項目はいずれも重回帰分析でQOLに影響を及ぼす因子であった。</p> <p>しかし、日本では、ストーマ造設の原因ががんである群はがんでない群より、QOLが有意に高値であったことと、術前の説明あり群は説明なし群に比べ有意に高値であったことのみ観察された。さらに、2国のデータを単純比較した結果、ストーマ関連QOLは国ごとに有意差がなかったが、一般QOLでは、項目ごとに有意な差があった。ベトナムの一般QOL得点は、身体的状態以外、活動性、心理的状态、セルフエスティーム、セクシュアリティ、経済的側面は、すべて日本対象者より低いことが明らかになった。</p> <p>【総括】 ベトナムの人工肛門造設患者QOLは健康者より低く、年齢、ストーマ造設後経過日数、ストーマ造設の原因、ストーマに関する相談相手有無、術前の説明有無に関して影響を及ぼしていた。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。